

広報

No.978 2022

もろやま 3



表紙
特集

町の鳥 めじろ (撮影:令和3年3月16日。滝ノ入地区)

第3回もろやま観光フォトグランプリ結果発表 / P 2-5

～学校と地域でつくる学びの未来～

地域学校協働活動 / P 6-9

新型コロナワクチン接種についてのお知らせ / P 10

3月は「自殺対策強化月間」です / P 11

ご存じですか? 『成年後見制度』 / P 12-13

「鎌倉街道と古墳の森」保存活用プロジェクト

～令和3年度の活動をお知らせします～ / P 14

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、紙面に掲載したイベント等は中止または内容の変更になる場合があります。

毛呂山町LINE公式アカウント
にご登録ください♪



第3回 もろやま観光フォトグランプリ 結果発表



毛呂山町観光協会主催による「第3回もろやま観光フォトグランプリ」が実施され、応募期間の令和3年11月26日から令和4年1月11日にかけて、町内外から50点もの応募がありました。そのなかで厳正な審査の結果、見事に賞を獲得した作品を紹介します。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今年も受賞作品の展示は行いませんが、毛呂山町観光協会のホームページで公開を行っています。

問合せ 一般社団法人 毛呂山町観光協会 ☎250-8143



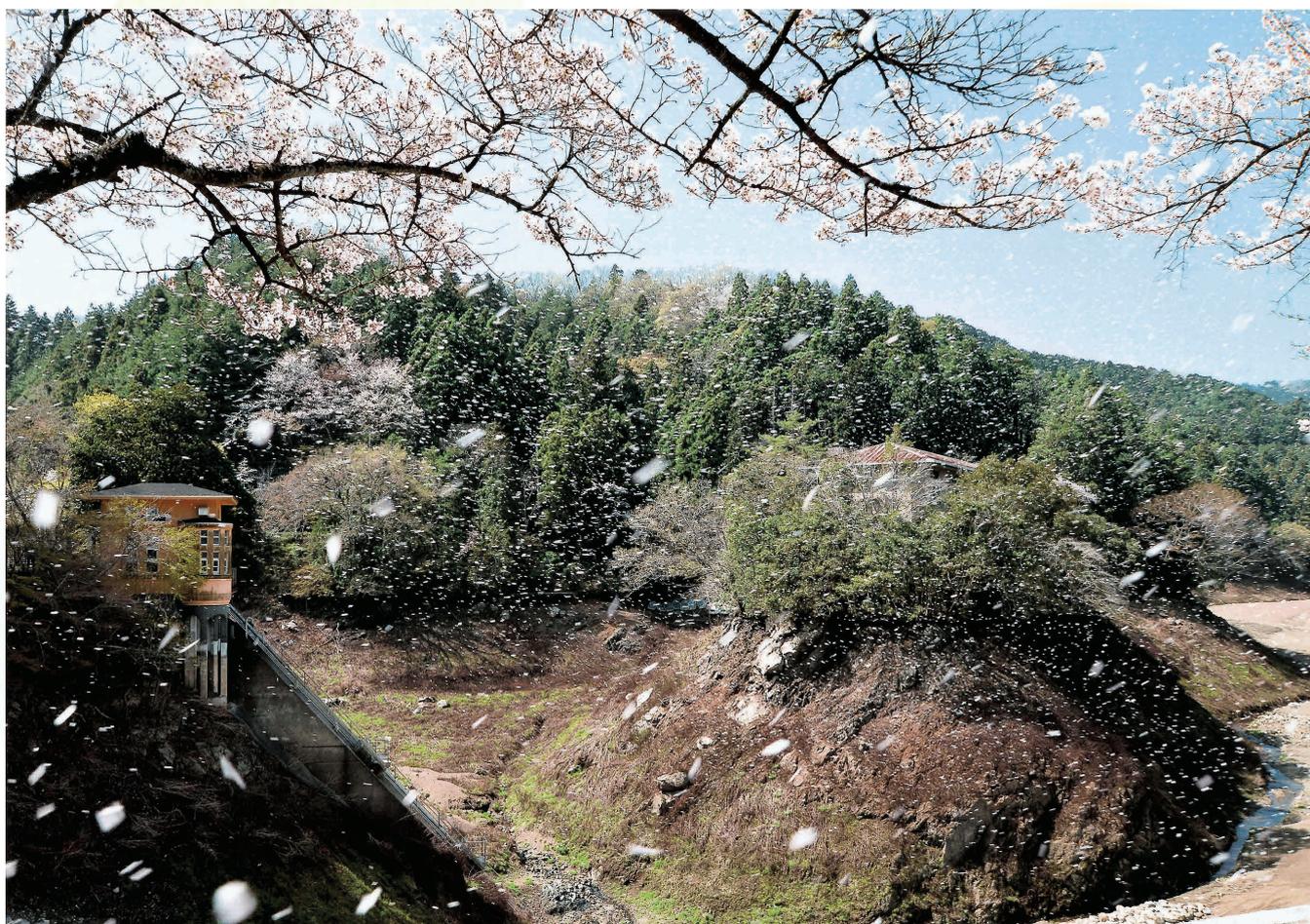
グランプリ

『花吹雪』

撮影者 田中 志次^{しんじ}さん

■グランプリ受賞者のコメント

雪が降れば鎌北湖、桜が咲けば鎌北湖へと何年も通っています。水のない鎌北湖でしたが、運よく風が吹いて桜吹雪を撮ることができましたが、まさか自分が『グランプリ』を頂けるとは思ってもいませんでした。大変嬉しい限りです。ありがとうございました。



～審査員講評～

毛呂山町の観光や撮影スポットでもある鎌北湖の咲き誇った桜の花びらが風に舞うダイナミックな情景を見事に切り取り作品にされています。シャッタースピードの選び方もベストだと思います。耐震工事の期間中には湖の水が全部抜かれ、このときにしか撮れない鎌北湖の桜の貴重な作品になりました。コロナが収まっていつものようなお花見を楽しみたいものですね。

📷 まつり・イベントの部



観光協会長賞

『ゆずせいぞろい』

撮影者 中川 弘子さん

～審査員講評～

ゆずまつりの会場で、箱詰めされたゆずを選んでいる女性が「これがいいかな」って言っている声が聞こえてくるようです。そのチャンスをうまく捉えて^{とら}います。奥行きを感じさせるようなフレーミングも素晴らしく、会場の様子もよく伝わる作品になっています。

優秀賞

『田植え体験がんばろう！』

撮影者 ^{おおやぎ}大谷木 春男さん

～審査員講評～

一列に並んだ子どもたちの姿が田んぼに写り込むのを撮影するためのカメラポジション。「ガンパロー」と手を挙げた瞬間のシャッターチャンス。フレーミングとも秀逸です。



特選

『バラのトンネル』

撮影者 池田 義和さん

～審査員講評～

アーチ状のバラのトンネルが見事ですね。バラを見に来られた人を入れたので、アーチの大きさや奥行きなどもうまく表現できています。



📷 笑顔・ふれあいの部

観光協会長賞



『祝1歳！ はじめてのケーキ、最高！』

撮影者 misaさん

～審査員講評～

とてもうれしそうに満足げな表情を画面いっぱいうまく撮られました。まさに誕生日のケーキを頬ばって食べた後、口についたクリーム、クリームのついた右手もかわいらしさが見えます。壁に掛けられたマスクや消毒用のスプレーなどもコロナ時代の作品としてさりげなく入れているところは見事です。

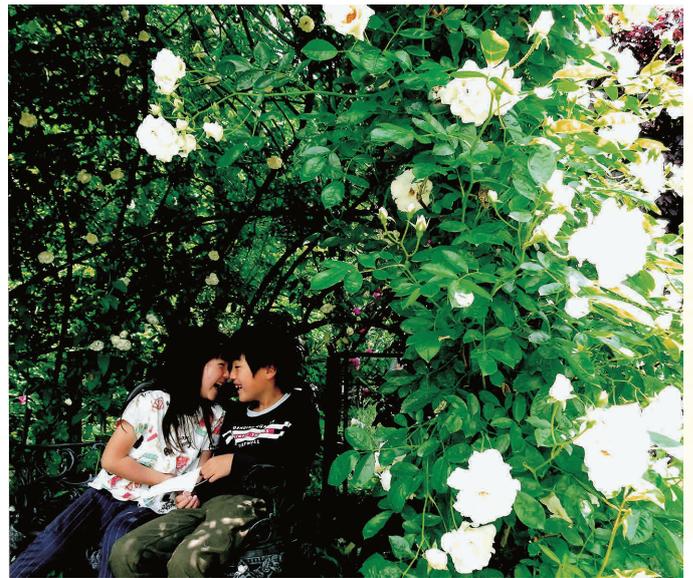
優秀賞

『スウィートタイム』

まさのり
撮影者 藤原 正宜さん

～審査員講評～

二人だけの内緒の場所でしょうか、仲のよい男の子と女の子が楽しく語りあっているストーリーを感じる作品になっています。バラに包まれているような構図も良かったと思います。



特選

『いい香りだよ！』

ふにゅう
撮影者 船生 利雄さん

～審査員講評～

何といっても男性の笑顔がいいですね。はしごの上の方に登ってゆずを採っているのが豊作で、出来もよかったです。いい香りが漂ってくるようにも感じられる作品です。



📷 風景・自然の部

観光協会長賞

『我が家のキャンプライフ』

撮影者 たいりよさん

～審査員講評～

コロナ禍でも、清々しく家族と過ごされた感じがよく表現されています。家族の表情やペットの犬、車、青空の下でのキャンプはとても楽しかったことでしょう。和気あいあいの雰囲気伝わってくる作品になっています。



優秀賞

『雨のバラ園』

撮影者 中庭 妙子さん

～審査員講評～

雨の日だからこそ撮れる景色ですね。霞んだ背景でバラのアーチがより映え、傘をさした2人もいいアクセントになっています。広大なバラ園に行ってみたいと思いました。



特選

『収穫』

撮影者 渡部 毅さん

～審査員講評～

画面いっぱいに稲束を入れたことで、豊作だったことがわかります。ご夫婦でしょうか、仲良くそれぞれの持ち分を手際よく作業されている様子が上手く表現されていると思います。



～学校と地域でつくる学びの未来～

地域学校協働活動

School Home Community



地域と学校の関係は、地域が学校・子どもたちを「応援・支援」する一方向的な活動から、地域と学校がパートナーとして「連携・協働」する双方向型の活動へと変化しています。

光山小学校 放課後学習教室

近年、少子高齢化やグローバル化の進展などに伴い、教育環境や社会環境は大きく変化しています。学校においては、子どもを取り巻く問題が複雑化・困難化しており、学校だけではなく、地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えていくことが求められています。

また、子どもの成長を軸として、学校を核とした地域づくりを推進することにより、地域の将来を担う人材の育成を図ることや、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図ることも期待できます。

毛呂山町では令和元年度に、中学校区を単位として2つの学校運営協議会が設置され、地域住民の参画や連携を強化するコミュニティ・スクールのスタートしています。

令和3年度には、地域と学校をつなぐコーディネーターとして地域学校協働活動推進員を委嘱しました。「地域とともにある学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」を実現するための取り組みを

践しています。

今回の特集では、実際にゲストティーチャーとして地域学校協働活動に参加していただいている手話サークル「手の絆」代表の島根さんと、地域学校協働活動推進員の渋谷さん、そして学校現場としての立場から積極的に地域との協働を進めている川角中学校の前田教頭に、現状の取り組みや考え方について、お話を伺います。

問合せ 教育委員会生涯学習

課学習支援係 ☎29512

112 内線522

文部科学省が推進する地域学校協働活動について、さらに詳しく知りたい人は、文部科学省ホームページをご覧ください。

School Home Community

学校と地域でつくる
学びの未来



地域学校協働活動



渋谷 辨洋 さん
SHIBUYA Benyo
地域学校協働活動推進員



島根 ちか子 さん
SHIMANE Chikako
手話サークル「手の絆」代表



前田 伸吾 さん
MAEDA Shingo
川角中学校 教頭

座談会 Member

先生の熱意が 授業のきっかけに

前田 川角中学校では、ゲストティーチャーとして手話サークル「手の絆」の皆さんに授業をしていただいておりますが、サークルの方の反応はいかがですか。

島根 初めは大変だから嫌だという声もありました。でも将来的に手話を広める道を作っていると思って、お互いのために引き受けようということになりました。

渋谷 学校はなぜ手話の授業をお願いしようと思ったのですか。

前田 毛呂山町で手話言語条例が制定されたことがきっかけの一つです。

島根 学校では昔から車いす体験などの福祉体験授業をやっていましたよね。手話体験もぜひ取り入れてほしいと思っていました。

前田 こちらも公民館まつりで「手の絆」の皆さんの活動をみて、授業に取り入れたいと考えていました。

渋谷 お互いのニーズが合ったんですね。

島根 最終的には教頭先生の熱意を感じ、協力したいと思いました。

子どもたちにとっても

地域にとってもプラスに

前田 生徒たちもゲストティーチャーの授業になると、普段の授業よりも積極的になるのを感じます。

渋谷 私も先日、川角中学校でゲストティーチャーをし

“子どもたちのほうから 声をかけてくれるようになりました”

ました。登校時の見守り活動の帰りに交通事故に遭い、その経験から、交通事故は誰の身にも起こり得る可能性があることや、人と人とのつながりなどについて話をしました。

前田 事故を起こしてしまった方が涙を流して何度も謝る姿を見て、この方も心に傷を負ったのだから、自分が元気になることでその方の心の支えにならないといけないという渋谷さんのお話に胸を打たれました。

渋谷 生徒たちが真剣な眼差しで私の話を聞いてくれたことが印象的でした。

島根 授業を通じて生徒たちから学ぶことがたくさん



ありますよね。また、度々学校に足を運ぶうちに、生徒たちが顔を覚えてくれて、あいさつをしてくれるんです。とても嬉しいですね。

渋谷 以前から知っている子で、あいさつを返してくれるなかった子が、ゲストティーチャーの授業をきっかけに、あいさつをしてくれるようになりました。

島根 子どもたちの笑顔で私たちも元気になりますし、子どもたちにとっても地域の大人と話すきっかけになるので、お互いにとって嬉しいことですよね。

渋谷 学校内だけでなく、スパーなどで会ったときにも声を掛け合える関係にな



ゲストティーチャー 手話 (手話サークル「手の絆」)

地域学校協働活動



ゲストティーチャー 道徳 (渋谷辨洋さん)

れば、地域の潤滑油じゆんかつゆになっていくのではないのでしょうか。

特別なイベントではなく日常に

前田 川角中学校では手話や書き初めなどのゲストティーチャーをお願いしていますが、手話などを押している訳ではありません。地域の方々との出会いを通して、色々な人がいて、お互いを思いやる心を持ってほしいなと思っています。
島根 そのためには手話の授業が単に体験学習にならないことが大切です。

前田 そうなんです。手話をやってみようではなくて、その先にある目的や目標について生徒一人ひとりが考えることが大切なんです。
渋谷 なぜ手話の授業なんだろうということではなかったのですね。

前田 手話の授業などが年に一度の「特別なイベント」になってしまうと、地域学校協働活動は続かないと思います。理想は学校内のコミュニケーションでサークル活動をしている方と生徒と一緒に活動したりすることです。渋谷さんのような地域の方と気軽に話せる場や雰囲気づくりも大切だと思います。

島根 どのサークルも高齢化しているので、学校にそういう場があるといいですね。
眠っている地域の底力を掘り起こす

渋谷 地域と学校をつなげることが、私の役割なんですね。色々な特技をお持ちの方や、子どもたちのためになるならと考えてくださる地域の方はたくさんいらっ



ゲストティーチャー 書初め(書道サークル「さくら」)

しゃいます。まずは私から学校にどんだん顔を出していきたいと思います。

前田 すぐに成果が出るような活動ではないと思いますが、ですが小中学校での経験をもとに、子どもたちが将来、町に帰ってきたり、町のために何かをするきっかけになるのではないのでしょうか。「地域が子どもたちを育て、子どもたちが地域をつくる」この言葉に尽

“地域が子どもたちを育て 子どもたちが地域をつくる”

きると思います。地道な活動が数珠じゆずつなぎになって、将来の毛呂山町をつくるのかもしれないですね。

島根 昔は近所にどんな子が住んでいるか、みんな知っていました。大人から気軽に声をかけてもらいましたよね。今はどんな子どもが地域に住んでいるかも知らないですし、声をかけてはいけないような雰囲気すらあるように感じます。

“人と人をつなげる 接着剤になりたい”

思っています。お二人も仰っていたように、子どもたちと一緒に何かができたり、子どもたちの笑顔を見たりすると、地域も元気になると思うのです。

島根 本当にその通りですね。それに子どもたちも地域の役に立つと、地域の一人だという自覚も生まれ、なんだか嬉しそうですよ。

渋谷 人と人や、地域と学校をつなげる接着剤が必要なんです。接着剤といっても強固なつながりではなく、ゆるいつながりを作ることが、この活動を長く続けるために大事なのかなと気付きました。

本日はありがとうございました。



ゲストティーチャー 昔の暮らし体験 (歴史民俗資料館サポーター)



地域学校協働活動



川角中学校区

渋谷 辨洋 さん

子どもの笑顔は生きる力
地域で育む明るい学校



毛呂山中学校区

谷住 妙子 さん

学校に興味関心を持ってもらい、親しみと感謝の思いを繋げていきます。

地域学校協働活動推進員 を紹介します

地域と学校をつなぐコーディネーターの役割は必要不可欠です。地域と学校との連絡調整等を行うコーディネーターを「地域学校協働活動推進員」として、教育委員会が中学校区ごとに委嘱しています。

広まっています 地域学校協働活動

できる人が できるときに できることを
あなたにも無理なくできることがあるかもしれません

毛呂山町では、公民館サークルや資料館ボランティアなどをゲストティーチャーとして招き、授業を行っていただいているほか、下記のような地域学校協働活動に取り組んでいます。

▼ 放課後学習教室



放課後学習教室は、放課後に学校の余裕教室を活用し、児童の居場所と自主的な学びの場を提供する取組です。地域の方が宿題の見守りやドリルの補助指導・採点等を行っています。

▼ 除草、樹木剪定作業



地域学校協働活動推進員や民生委員の呼びかけで、地域の有志の方が学校の草刈りや枝の剪定をしてくださいました。

▼ 登下校の見守り



児童生徒たちの通学時の安全を守るために、通学路の危険な箇所りっに立哨しょうしていただいたり、付き添い登校してくださっています。

コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)



川角中学校区
学校運営協議会

毛呂山中学校区
学校運営協議会



学校運営協議会は、小中学校の運営に関し保護者および地域住民の参画を促進し、連携を強化することにより、相互の信頼を深め、一体となって学校運営の改善並びに児童生徒の健全育成に取り組むことを目的としています。

具体的には、年度当初に校長が掲げる学校経営方針の策定に対し、意見・助言および承認を行うこと、学校の運営状況等について評価を行うことにより、学校運営に参画する仕組みです。

毛呂山町では、中学校区を単位として学校運営協議会を組織し、小中一貫教育を支えています。